

施策評価シート

評価実施年度：令和元年度

幹事部局

健康福祉部

<p>施策の名称</p>	<p>施策Ⅱ－４－２ 妊娠・出産支援の充実</p>
<p>施策の目的</p>	<p>全ての親と子が健やかに暮らせるよう、妊娠・出産期を通じた親と子の心と体の健康の保持増進を目指します。</p>
<p>施策の現状 に対する評価</p>	<p>(妊娠・出産期からの切れ目ない支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> 母子保健サービスを妊娠早期から利用してもらうためには、妊娠早期での妊娠届出が必要であり、妊娠11週までの届出を推奨しているが、妊娠11週までの妊娠届出率が88.2%（平成30年度）と国平均95%（平成27年度）を下回っている。 低出生体重児の出生割合は、ここ数年10%前後で横ばいとなっており、全国平均9.4%（平成28年）を上回っているが、妊娠中の喫煙、偏った食生活や極端な体重制限などへの啓発の積み重ねが必要である。 県内でも児童虐待による重症事例が報告されており、母親のメンタルヘルスへの支援等への対応など、市町村における妊娠・出産・子育て期の切れ目ない相談支援体制を構築することが必要であり、「子育て世代包括支援センター（総合相談窓口）」を全市町村に設置することを目標としているが、平成30年度で12市町村の設置にとどまっている。 周産期医療提供体制については、総合周産期母子医療センターや地域周産期母子医療センターを中心に、周産期医療ネットワークを構築し、安心して出産できる体制づくりが図られつつあるが、産科・小児科医師の減少や地域偏在は解消されていない。 <p>(不妊治療への支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> 晩婚化により不妊に悩む夫婦も増えているが、不妊についての理解が不十分のため男性の不妊治療の参加が遅れがちであり、不妊治療の効果がにくい場合がある。特に若い世代への効果的な広報を実施していくことが必要である。 また、不妊治療と仕事を両立できず、離職したり治療をやめる夫婦も多いことから、企業側の理解を深める取組が必要である。
<p>今後の取組み の方向性</p>	<p>(妊娠・出産期からの切れ目ない支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て世代包括支援センターを全市町村に設置し、妊娠期からの切れ目のない相談・支援体制づくりを進める。 県としても、保健所、医療機関などの関係機関と連携して、妊娠期や産後早期から母親のメンタルヘルスの支援を行うとともに、市町村における産後ケア等体制づくりを支援し、安心して出産・子育てできる環境づくりを推進する。 低出生体重児等の課題についての要因分析などを母子保健担当者会議等でさらに検討を進めるとともに、その要因である妊娠中の喫煙、偏った食生活や極端な体重制限などへの啓発を進める。 周産期医療提供体制については、周産期関係病院と連携して、各医療機関の現状と課題を共有し、連携促進を図るための検討を進めるとともに、各圏域においても圏域の実情に応じた医療機関の機能分担と連携などについて検討を進める。 <p>(不妊治療への支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> 男性不妊を含む不妊について、若い世代がより身近に感じやすいスマートフォン向けアプリの活用など、広報の充実を図る。 また、不妊治療と仕事の両立支援に関する情報を企業向けに発信し、企業の不妊治療への理解を深める取組を推進する。

施策に関連する指標の一覧

施策の名称	施策Ⅱ－４－２ 妊娠・出産支援の充実
-------	--------------------

施策の目的達成に向けて取り組む事務事業において設定している主な成果参考指標

項番	施策の成果参考指標	指標名	平成27年度	平成30年度		令和元年度	単位
			実績値	目標値	実績値	目標値	
1	○	低出生体重児の出生割合（暦年）	10.8	10.0	9.6	9.6	%
2	○	妊娠初期（妊娠11週以下）からの妊娠届出率	88.6	90.5	88.2	91.0	%
3	○	出生後4ヶ月児の母乳育児の割合	64.5	67.5	62.9	68.5	%
4	○	妊娠・出産・子育ての総合相談窓口の設置市町村数	1.0	15.0	12.0	19.0	市町村数
5	○	全戸訪問による産後の母親支援の実施市町村数	7.0	17.0	14.0	19.0	市町村数
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

事務事業の一覧

施策の名称	施策Ⅱ-4-2 妊娠・出産支援の充実
-------	--------------------

	事務事業の名称	目的 (誰(何)を対象として、どういう状態を目指すのか)	前年度 事業費 (千円)	今年度 事業費 (千円)	所管課名
1	お産あんしんネットワーク事業	周産期を支える医療機関等の関係者と連携し、高度専門医療を効果的に提供できる周産期医療体制を構築する	38,103	65,222	健康推進課
2	女性の健康相談事業	不妊に悩む夫婦や思春期の子どもや保護者等の不妊や思春期の不安を軽減する	2,231	2,545	健康推進課
3	不妊治療支援事業	不妊に悩む夫婦など、子どもを産み育てることを望む夫婦の希望を叶えるために、不妊検査・治療を促進する	84,122	131,820	健康推進課
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅱ-4-2 妊娠・出産支援の充実
-------	-----------------------

1 事務事業の概要

担当課	健康福祉部健康推進課
-----	------------

名称	お産あんしんネットワーク事業				
目的	誰(何)を対象として	周産期を支える医療機関等の関係者	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	高度専門医療を効果的に提供できる周産期医療体制(連携体制)を構築する。		38,103	65,222
			うち一般財源	1,239	1,733
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期医療協議会：県における周産期医療体制について協議するとともに、周産期医療体制の充実を図る。また圏域周産期医療体制検討会を開催し、各圏域における周産期医療体制について検討する。協議会では、搬送連絡票やマニュアルの運用についての評価を行う。また、より支援を必要とする妊産婦への支援体制について検討する。 ・島根県周産期医療ネットワーク構築事業：島根県内の周産期医療体制の充実を図るため、総合・地域周産期母子医療センターの周産期医療機関運営費等の補助及び関係者への研修等を行う。 				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	より支援を必要とする妊産婦へ支援するにあたり、関係機関との連携構築が必要であり、今年度、医療従事者向けの研修会を産婦人科医会と協力し実施する。				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名	協議会開催回数	目標値	15.0	15.0	15.0	15.0	回
	式・定義	県及び各保健所の協議会・検討会の開催回数	実績値	12.0	18.0	16.0	16.0	
			達成率	-	120.0	106.7	106.7	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など								
<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健・医療・福祉・教育関係者等の多機関との連携強化を目指した協議会が各圏域で開催された。 ・県協議会では、母体・新生児の搬送連絡票の改訂や、搬送マニュアルを策定した。 ・島根県周産期医療ネットワーク会議(総合・地域周産期母子医療センター連絡会)、周産期医療体制圏域検討会を開催し症例検討や地域特性に応じた体制整備の検討を行った。 ・まめネット活用による周産期医療機関間の情報共有が可能となった。 								

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県周産期医療ネットワーク会議(総合・地域周産期母子医療センター連絡会)を年1回実施し、実態調査の結果や症例をもとに各病院間の連携のあり方について検討できた。 ・各圏域では地域の実情に応じて症例検討や看護連絡会を開催し、圏域内の関係者の連携のあり方について検討できた。 ・周産期医療に関する調査を行い、各医療機関・圏域等の状況把握に役立てることができた。 ・周産期医療協議会において「母体・新生児搬送連絡票」様式改訂と搬送マニュアル策定を行った。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	・協議会及び圏域検討会において、「より支援を必要とする妊産婦への支援・連携体制」の検討が行われており、医療機関や行政等関係機関の連携体制の整備が課題としてあがっている。
	② 上記①(課題)が発生している原因	各機関、職種により対象者のとらえ方やスクリーニング方法、支援の考え方がまちまちである。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・関係者が支援を必要とする妊産婦への支援の必要性を認識し、連携した支援が行えるような体制を整える必要がある。医療従事者向けの研修の場の確保や関係者間の連絡会等の開催をおこなう。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅱ-4-2 妊娠・出産支援の充実
-------	-----------------------

担当課	健康福祉部健康推進課
-----	------------

1 事務事業の概要

名称	女性の健康相談事業				
目的	誰(何)を対象として	不妊に悩む夫婦や思春期の子どもや保護者等	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	不妊や思春期の不安を軽減する		2,231	2,545
			うち一般財源	909	1,273
今年度の取組内容	○不妊対策事業：不妊に悩む夫婦などを対象に専門の医師等による相談等で自己決定の支援を行う。また、効果的な事業の推進を図るため検討会を行う。 ○思春期専門相談事業：思春期の性に対する不安を解消するため、思春期の男女と保護者に対して、性に関する相談を行う。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・スマートフォン向けアプリ等を活用し、若い世代に向けた普及・啓発を重点的に行う。				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名	相談延べ人数	目標値		400.0	400.0	400.0	400.0
			(取組目標値)					
	式・定義	不妊専門相談及び思春期相談を受けた延べ人数	実績値	208.0	263.0	246.0	225.0	
			達成率	-	65.8	61.5	56.3	- %
2	指標名		目標値					
			(取組目標値)					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	- %
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など								
・不妊専門相談センターでの相談件数は、平成27年度111件、平成28年度140件、平成29年度117件、平成30年度72件であった。 ・不妊相談では、面談での相談も可能であるが、平成30年度は0件だった。 ・思春期相談件数は、平成27年度97件、平成28年度123件、平成29年度129件、平成30年度153件であった。 ・平成30年度の思春期相談件数のうちおよそ8割(125件)については、男性からであった。 ・不妊対策検討会を開催し、相談内容の共有や情報交換に役立てている。								

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 不妊対策検討会では関係機関の連携強化が図られている。 不妊専門相談センターにおいては、不妊症の検査・治療や、不妊治療を実施している医療機関の情報に関して、専門に医師等が相談対応することで、不妊に悩む夫婦の不安軽減が図られた。 思春期専門相談事業では、第二次性徴などの思春期特有の悩みに関して、助産師が相談対応することで、思春期の男女と親の不安軽減が図られた。 不妊専門相談センターについては、ネット検索上位に出てくることからアクセスしやすいとの意見があった。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> 男性不妊の認知が不十分。 若い世代の妊娠出産に関する正しい理解が不十分。 不妊専門相談センターの相談件数の減少。
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> リーフレットの設置場所やTV、県HP等対象世代がアクセスしやすい方法での情報提供が不十分。 中でも、若い世代に対してより効果的な広報を実施する必要がある。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォン向けアプリを通じた情報発信など、若い世代がより身近に感じるツールを用いた広報を図る。 不妊対策検討会での関係機関の連携強化を図る。 不妊対策事業及び思春期専門相談事業については、アクセスしやすい形で周知をはかる。(TVや県HP、商業施設へのリーフレット設置) 若い世代のうちから、妊娠性についての知識や悩んだ時には相談できる場所があることを関係機関(子ども・子育て支援課、教育庁など)とともに周知を実施。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅱ-4-2 妊娠・出産支援の充実
-------	-----------------------

1 事務事業の概要

担当課	健康福祉部健康推進課
-----	------------

名称		不妊治療支援事業			
目的	誰(何)を対象として	不妊に悩む夫婦	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	子どもを産み育てることを望む夫婦の希望を叶えるために、不妊検査・治療を促進する。		84,122	131,820
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特定不妊治療費助成：特定不妊治療（体外受精・顕微授精）を受けた夫婦に対して、費用の一部を助成する。 ・男性不妊検査費助成：男性の早期からの不妊治療参加を促進するため、男性不妊の検査を受けた夫婦に費用の一部を助成する。 ・仕事と不妊治療の両立支援：不妊治療と仕事の両立を支援するため、主に企業に向けての啓発等を実施する。 				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・男性の早期からの不妊治療参加をより促進するため、男性不妊検査費助成制度を拡充 				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	助成件数	目標値		1200.0	1200.0	1200.0	1200.0	件
	式・定義	助成件数（H27は特定不妊のみ）	実績値	977.0	898.0	909.0	877.0		
			達成率	-	74.9	75.8	73.1	-	%
2	指標名		目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

- ・特定不妊治療費助成：平成27年度977件 平成28年度838件 平成29年度835件 平成30年度830件（うち松江市分280件）
（※平成30年度より松江市中核市移行により松江市在住者分は松江市で助成）
- ・男性不妊検査費助成：平成28年度60件 平成29年度74件 平成30年度47件
→平成30年度制度改正（①助成率の引き上げ（5割→7割） ②助成上限額の引き上げ（2万円→2万8千円））

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビCMや広報誌等で啓発をはかったことにより、特定不妊治療費の助成件数（松江市在住者分を除く）が増加した。
課題分析	① 「目的」の達成のため（又は達成した状態を維持するため）に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> ・晩婚化による不妊に悩む夫婦の増加 ・男性の不妊治療への参加が遅い ・男性不妊検査費助成件数の減少
	② 上記①（課題）が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> ・妊孕性や男性不妊への理解が不十分 ・妊孕性や男性不妊に係る意識啓発等が必要である。 ・広報が効果的でなく、情報が行き届いていない可能性がある ・近年の晩婚化等を背景に不妊治療を受ける夫婦が増加する中、不妊治療と仕事を両立できず、離職したり治療を諦める夫婦も多い。
	③ 上記②（原因）の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き各種助成制度の周知を図っていくとともに、妊孕性・男性不妊について意識啓発を図る。 ・治療に係る医師や関係者からの意見を聞き取り、事業に反映させる。 ・CMや広報誌といった従来の広報媒体のみでなく、ターゲット層（10代～40代）がより身近に感じられるよう、広報媒体の工夫やホームページのリニューアルを行う。 ・助成制度の周知に併せて不妊治療と仕事の両立支援に関する情報を企業向けに発信し、企業の不妊治療への理解を促す。